

2014年第15回「小学館文庫小説賞」 受賞作品決定

第15回「小学館文庫小説賞」は、2012年10月から2013年9月末日まで募集され、626篇のご応募をいただきました。小学館出版局文芸の全編集部員による最終選考会を開き、最終候補作4作品の中から、風カオルさん（大分県 32歳）の『ハガキ職人カタギ!』を第15回「小学館文庫小説賞」受賞作とすることに決定いたしました。風カオルさんには記念品と副賞100万円をお贈りします。受賞作は、近日中に小学館より単行本として刊行する予定です。「小学館文庫小説賞」は、『感染』（仙川 環・著）や『神様のカルテ』（夏川 草介・著）等のベストセラーを輩出しています。

【作品介绍】

主人公は、西日本の地方都市に住む高校二年生の清水政弘。学校では全く目立たない存在だ。友達も白井という、ゲーム好きなイケていない同級生しかいない。恋愛対象ではないものの、クラスにはちょっと気になる存在の榊さんという女子がいる。学校ではぱっとしない清水だが、隠れた笑いの才能があった。実は人気深夜ラジオ番組に面白いネタを投稿するいわゆる「ハガキ職人」として番組ファンの中では有名な存在なのだ。常連投稿者には、他に「湯葉の人」「シャッチョ」「ボルマーク」という有名ハガキ職人がいるが、ボルマークだけが一切素性を明かしていなかった。ある日、清水は常連のひとりから、ハガキ職人が出演する大喜利ライブへの参加を持ちかけられる。夏休みに行われたそのライブは成功し、観客から評価も受け、自信をつける。偶然町で会った榊さんが、清水がライブに出演したことを知っていて浮かれる。そのころ、シャッチョが自分の運営するウェブラジオでボルマークの正体を探る企画を立てていた。悪趣味だと怒る清水に、ボルマークの正体は榊だと暴露するシャッチョ。ラジオに関わる人間関係に嫌気がさした清水は投稿自体をやめることにする。一方の榊さんは放送作家への夢を実現するために、文化祭でコントの脚本を書くと言い出す。コントの出来映えに驚きながら、彼女に恋していることに気づく清水だったが……。



【受賞者プロフィール】 風 カオル（かぜ・かおる）

1981年、大分県生まれ。別府短期大学大分キャンパス部生活文化学科卒業後、市立図書館の臨時職員として勤務。その後、大分県臨時職員、古書店アルバイトを経て、現在は百円ショップのパートタイムの仕事に就きながら、執筆活動に励んでいる。大分県大分市在。